

経営比較分析表

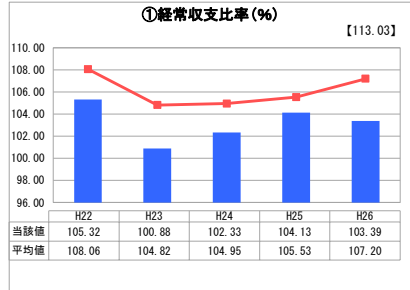
福岡県 みやこ町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A8
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	47.19	32.60	4,370

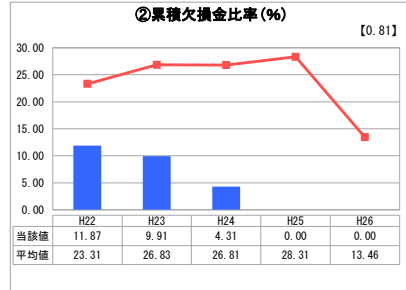
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
21,012	151.34	138.84
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
6,831	3.88	1,760.57

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成26年度全国平均

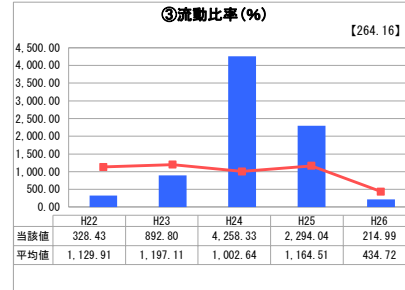
1. 経営の健全性・効率性



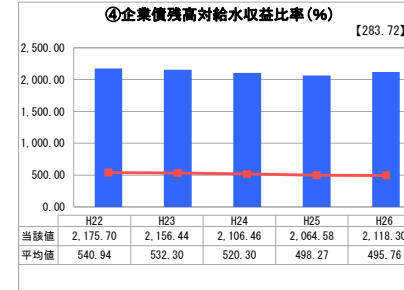
「経常損益」



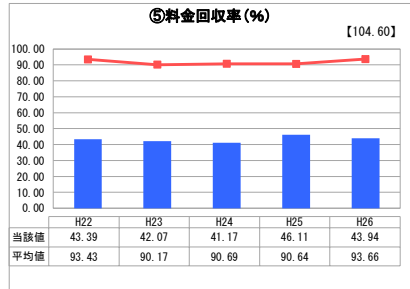
「累積欠損」



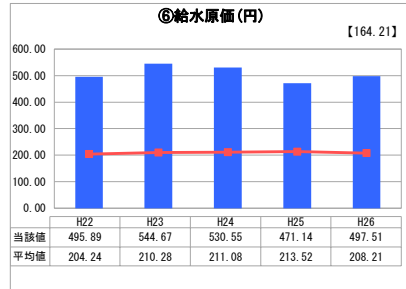
「支払能力」



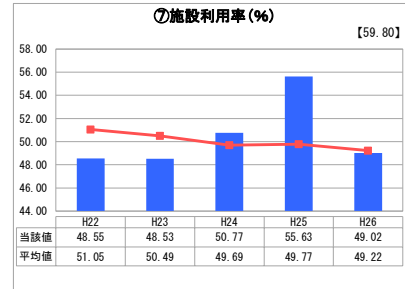
「債務残高」



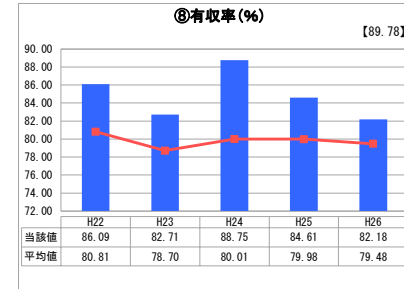
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

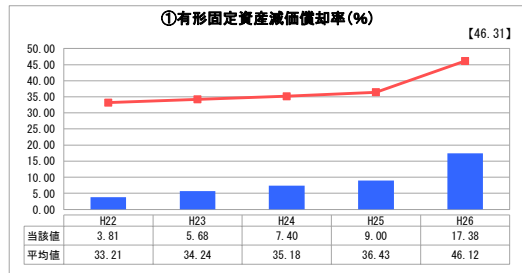


「施設の効率性」

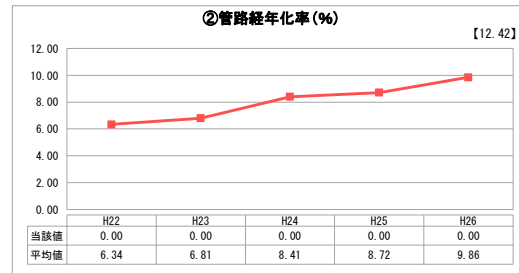


「供給した配水量の効率性」

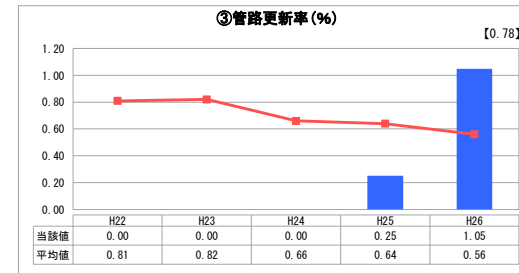
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経営の健全性については、「経常収支比率」は100%以上で黒字であり、「累積欠損比率」はH25年度より0である。また、「流動比率」は、一定の支払い能力確保できており、健全性は確保できているが、「料金回収率」が低く、「給水原価」は類似団体に比べ高い状態である事から、適正な料金収入での健全性ではなく、一般会計繰入金による健全性の確保となっている。

経営の効率性については、「有収率」は高く無効水量は少ないものの、「施設利用率」は低く「給水原価」は高いため、保有する施設を友好的に活用できていないと思われる。

また、「企業債残高対給水収益比率」は平均値よりかなり高い。

これらの要因は、給水区域拡張を行っているが、計画よりも給水利用者が確保できていないことと思われる。

2. 老朽化の状況について

①「有形固定資産減価償却率」、②「管路経年化比率」は低く、比較的新しい施設が多いことを示している。しかし、昭和50年代に整備された地域では、管路の老朽化により漏水等が頻繁に起こっている。

③「管路更新率」は特に漏水が多い箇所から、平成25年度より老朽管の改修事業を行っている。

全体総括

経営改善のためには、給水普及率を向上させ適正な料金収入を確保し、更なる経費削減を図る必要がある。

施設の更新は、平成26年度に水道施設更新計画を策定しており、実情に応じた更新を進めていく。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。